

-Index-

高等部「学校見学・体験入学」5/26のご案内  
補聴相談 — こんなことをしています！—  
チャレンジ！発音指導⑮



## 5/26 高等部「進路説明会」のご案内

本校高等部では、聴覚障がいのある中学生を対象にした進路説明会を実施します。進路選択の参考として、ぜひご参加ください。

- 日時 令和5年5月26日(金) 午前10時～11時30分
- 場所 高等部4階会議室
- 対象 中学3年生（生徒および保護者）  
中学1, 2年生の保護者
- 内容 (1) 高等部の概要説明・質疑応答等  
(2) 授業見学 ※寄宿舎の見学も可
- 集合 午前9時50分に中学部職員室前
- その他



- 本校では新型コロナウイルス感染症対策として、事前の検温、体調確認、手指消毒、咳エチケットをお願いしています。また進路説明会へのご参加は、保護者の方のみとさせていただきますのでご協力をお願いします。
- 駐車スペースはありませんので、車での来校はご遠慮ください。また、学校周辺の路上駐車は近隣の方のご迷惑になりますので固くお断りします。

〒540-0005 大阪市中央区上町1-19-31  
大阪メトロ：谷町線・中央線「谷町4丁目」⑩番出口 南東約600m  
谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町6丁目」⑦番出口 北東約600m  
シティバス：上町一丁目もしくは国立病院前下車

〈申込方法〉 別紙参加申込書を、在籍校を通してメール送信  
〈問い合わせ〉 大阪府立中央聴覚支援学校 高等部（首席）上田  
TEL 06-6761-1424（高等部直通）  
FAX 06-6762-1800

締め切り 5月12日（金）

## 補聴相談 — こんなことをしています！ —

本校では、各学部に聴能担当者が所属しており、子どもたちのきこえの評価（聴力測定、ことばのききとり評価など）や補聴器管理・調整を担当しています。聴能担当者は、きこえに関する専門性を持ち、保護者の同意のもとに医療機関と連携して、きこえの評価を行っています。また、保護者からの補聴器の買い換えに関する相談に応じ、補聴器販売店との調整を行うとともに、福祉の手続きに関する相談も受けています。

本校に在籍していない子どもたちについても、きこえの評価や補聴器管理・調整をはじめとした相談・支援の「補聴相談」を行っています。

聴力の測定やことばのききとり評価を行うとともに、補聴器や人工内耳の効果的な活用などについての相談に応じます

### — 補聴相談の内容 —

きこえに関する相談・支援を、医療機関と連携して行います

- 聴力測定
- 補聴器・人工内耳装着時のきこえの評価

### 聴覚活用の状況把握と聴能学習

- 補聴器・人工内耳・補聴援助機器に関する相談
- 合理的配慮や福祉制度に関する情報提供
- 支援学校への訪問による相談・支援



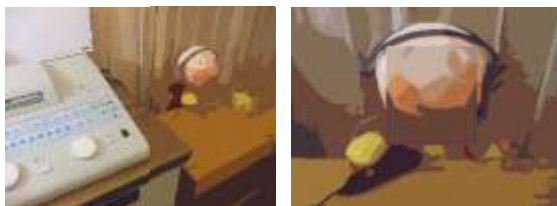
## きこえの評価（聴能室）

子どもの年齢や実態に合わせて手順は様々ですが、中学生や高校生の場合には、次のような流れで行うことが多いです。

### ①補聴器を外した状態での聴力測定

聴能室に入室し、補聴器をつけていない状態での聴力測定を行います。

聴力を測定するための機器のことをオーディオメータと呼び、機器に接続しているヘッドホン装着して、きこえてくる音に反応を示します。小さな音が徐々に大きくなり、きこえ始めたら手元のボタンを押したり、おはじきを移動させたりして「ある高さの音がきこえ始める音の大きさ」がどの程度であるかを調べます。



本校のオーディオメータでは、125Hzの低い音から8000Hzの高い音まで、それぞれの音の高さ(Hz)における、きこえ始めの音の大きさ(dB)を調べることができます。

## ②補聴器の状態を調べる

聴能室には、補聴器の性能を把握するための「補聴器特性装置」という機械があります。補聴器の音の増幅がどのくらいであるか(それぞれの補聴器が、どの高さの音をどのくらい大きくしているか)補聴器が正常に機能しているかどうかを調べる機械です。

聴能担当者が実際に補聴器からきこえてくる音を確認し、さらに補聴器特性装置で調べた結果、補聴器に何らかの異常があると思われる場合には、補聴器のどの部分に問題があるのかを調べます。その場ですぐに対応できる場合もあれば、必要に応じて修理に出すなどの方法を伝えることもあります。



## ③補聴器や人工内耳をつけた状態での聴力測定



補聴器や人工内耳をつけた状態での聴力(補聴閾値)を測定します。

ヘッドホンは装着せずに、1m離れたスピーカーからの測定音に対して、反応を示します。普通の学校生活では、子どもたちは補聴器をつけた状態で、保育や授業を受けています。どのように音がきこえているのかを把握することは、とても大切なことであり、補聴器の調整にも大きく影響しています。

## ④ことばのききとりを調べる

必要に応じて「あ、い、う・・・」などの単音や、単語や文章などのことばのききとりの状況を調べます。音声のみ、もしくは読話や手話を併用したうえで、一人ひとりのききとりの状況を調べることで、きこえた音からどのように「ことばを理解」しているのかを客観的に把握します。



補聴相談では、子どもたちが自分のきこえについて、あらためて考えたり、日頃感じている思いを打ち明けたりする様子が見られます。本人の気づきや思いを大切にしながら、必要な支援や配慮について、本人・保護者・在籍校と一緒に考えるように努めています。

# チャレンジ!発音指導 15

昨年度に引き続き、今年度も「チャレンジ!発音指導」シリーズを連載します。今号では、「ヤ行音」「パ行音」の指導方法について、ご紹介します。

🔊バックナンバーについては、[本校ホームページ](#)より閲覧可能です!

## ヤ行音

ヤ行音は、ワ行音と同様に半母音や半子音とされています。ですので、基本的にはワ行音と似た指導で発声可能です。

具体的には、「イ」の口の構えをして、素早く「ア」と発声すると「ヤ」ということができます。重度の聴覚障がいの場合は、「イー」→「アー」と1音ずつ分けて発音させ、徐々にその「イー」と「アー」の間を短くしていきます。最後には、2つの音節を連結し、「ヤ」の1音節にします。最終的には、「イ」は口の構えだけで発音はせず、「ア」音を出すことで、「ヤ」音を完成させます。

1音節で発音が可能となった後は、「ヤヤヤ・・・」といった連続音節や「母音+ヤ行音」、2音節語と広がっていきます。

## パ行音

パ行音は、両唇破裂音です。閉じられた両唇が、発声に伴う空気によって破られることで発音できます。この発声は、唇の動きだけで可能で、舌や顎の動きは必要ありません。

練習方法としては、綿球などを皿にのせ「パー」と柔らかく吹いて飛ばす遊びを行います。「パ」だけでなく、他の音でも同様の練習を繰り返していきます。「フツ」や「バ」にならないように気をつけます。特に、「バ」は有声(喉の声帯が振動している=喉を触ると振動していることがわかります)になってしまっているので、無声でだせるように指導します。その後は、2音節練習(パーパー、パーピーなど)、パ行音をランダムに発声させる練習、パ行音を含む語の練習を繰り返していきます。

「みみネット」編集部:

大阪府立中央聴覚支援学校 聴覚支援センター 担当: 中咲、金森  
〒540-0005 大阪市中央区上町1-19-31  
TEL. 06-6761-1419 FAX. 06-6762-1800